平成25 年度

イラン・ イスラム共和国の障害者支援事業

2013 年度　かながわ国際交流財団助成事業

「ホームケア支援事業・ バリアフリーまちづくり研修」

活動報告書

平成 25 年 6 月

特定非営利活動法人 イランの障害者を支援するミントの会

ごあいさつ

（神奈川県ボランタリー活動奨励賞受賞の時　2013 年 3 月）

2013 年イランで行ったプロジェクトは、日本の専門家によるイランのバリアフリー化を支援し、障害者の通勤・通学などの外出困難を解消し生活の自立を図るため、イランの障害当事者や行政・障害者施設が一体となって、日本のバリアフリー技術を学び、町つくりに役立てる。さらにイランの障害者の身体機能を高め、床ずれなどの合併症を防ぐための自己管理法の習得を支援し、ホームケアの支援システムを構築して、イランの障害者の生活の質の向上を目的として進められました。

イランの社会情勢や経済情勢は厳しいものがあります。その中で海外の NGO としてミントの会は日本とイランの懸け橋となり、これからもますます頑張る気持ちでいっぱいです。たくさんの方たちの助言や協力があってこそ活動がこのように大きくなりました。本当にありがとうございました。

かながわ国際交流財団の助成をうけ、多くの成果を生むことができました。今後ともミントの会の活動にご理解ご協力をお願いいたします。

2013 年 9 月

NPO　イランの障害者を支援するミントの会

理事長　パシャイ　モハメッド

目次

ごあいさつ 3

イランのホームケア支援活動 (2013年4月～5月)

第1章　イランの医療者との在宅障害者訪問
看護活動とケースケア検討会議 6
1－1　イランの医療者との在宅障害者訪問看護活動 6
1－2　ケースケア検討会議 8

第2章　キャハリザクキャラジ障害者施設
ホームケア研修会　褥瘡対策セミナー 9
2－1　実施概要 9
2－2　今回の研修の感想 10
問1　感想 10
問2　今後どのように生かしたいですか？ 10
問3　研修会での質問 10

第3章　イランの在宅障害者の自宅訪問活動 11

第4章　活動を終えて 13

バリアフリーまちづくり研修

第1章　キャハリーザク　BF研修 15
1　概要 15
1－1　実施日程 15
1－2　研修目的 15
（1）施設整備の見直しの視点を伝える 15
（2）当事者参加のＢＦ検討手法（ワークショップ）の技術を伝える 15
1－3　キャハリザクキャラジ障害者施設の紹介 15
2　事前調査 16
2－1　内容 16
2－2　参加者 16

2－3　現場調査の様子 16
3　BF 研修 19
3－1　当日参加者 19
3－2　研修内容 19
（1）目的 19
（2）　講義：日本の BF 紹介（講義） 21
（3）日本の小学生向け DVD の紹介 24
（4）視覚障害者誘導用ブロック体験 25
（5）グループに分かれて施設体験 25
（6）まとめ 26
3－3　検討結果のまとめ 28
（1）A班（寺島、宮地）　＊現場での意見交換も一部追記 28
（2）B班（パシャイ、福永）　＊現場での意見交換も一部追記 30
（3）その他 31
（4）感想コメント 31
3－4　アンケートのまとめ 32
問1　最も印象に残ったこと、はじめた知ったこと 32
問2　よくわからなかったこと、もっと知りたいこと 33
問3　自分の仕事で取り込みたいこと 33
4　工事中施設の BF 改善検討 34
4－1　検討対象 34
4－2　参加者 34
4－3　進行 34
4－4　検討内容 34
（1）【A棟】エントランスのカーブのあるスロープ 34
（2）【A棟】エントランスの階段手すり 35
（3）【B棟】エントランスの大階段のリフトの設置位置 36
（4）居住室内の「トイレ・洗面・シャワー」室 36
5　関連資料 38

第2章　サベージブラーブの BF 調査 40
1　実施日程 40
2　目的 40
3　サベージブラーブについて 40
4　A・B 2コースによるチェック 42

第3章　テヘラン・イスファハンのＢＦ整備状況報告 46

イランのホームケア支援活動（2013年4月～5月）

第１章　イランの医療者との在宅障害者訪問看護活動とケースケア検討会議

＜日　時＞2013年4月30日

＜場　　所＞イランキャラジ市内

＜参加者＞

アルボース州福祉省	訪問看護師	ファテヒさん
キャハリザクキャラジ障害者施設	訪問看護師	モハンマディさん
キャラジ開業医	床ずれ専門医	サファイーさん
神奈川県内訪問看護ステーション	訪問看護師	大澤
ピアカウンセラー		パシャイ
訪問看護利用家族		ファテメ
通訳・障害者家族		レザイ　アリーレザイ

１－１　イランの医療者との在宅障害者訪問看護活動

ケース紹介　床ずれ状況	身体状況　　日常生活	アセスメント
ケース① 36歳　男性　Ｃ５ 33歳の時交通事故で受傷34歳から褥瘡になり治療継続 左坐骨3×4　ステージⅣ 感染あり　浸出液多い 臭気あり洗浄ガーゼ保護	エアマットは平坦なもの使用車いす使用少ない ベッド無　食欲ふつう、 週１回自宅シャワー 排便回数多く軟便 尿カテーテル留置2000ＭＬ	訪問看護キャハリザク利用ポケットが大きく、感染が問題で手術適応 適切な軟膏処置が必要 寝たきり状態のため、リハビリと福祉用具が必要 イマームホメイニ病院紹介
ケース② 65歳　女性　Ｔ１０ 35歳頃膀胱の手術後に麻痺出現　膀胱結石あり 10年前から褥瘡がある仙骨3×3　ステージⅣ 感染なし　浸出液多い 臭気なし　洗浄ガーゼ保護	エアマットが破損して効果なし ベッドなし　車いす使用なし 食欲多く肥満 週１回自宅シャワー 夫が摘便毎日　尿カテーテル留置 肥満で自力体位交換不可	訪問看護キャハリザク利用寝たきり状態のためリハビリと福祉用具が必要 適切な軟膏処置が必要 体重が重いため体重管理する
ケース③ 57歳　男性　Ｌ４ 34歳の時交通事故で受傷 自殺未遂　機能徐々に回復 左臀部2.5×2.5ステージⅢ 感染なし　浸出液少ない デブリ後ドレッシング保護	ロホマット破損し円座使用 車いす外出あり　食欲良好 自宅シャワー　トイレ排泄 尿カテーテル留置	訪問看護キャハリザク利用 円座利用による圧迫で発症した為ロホマット使用必要 座位時あぐらをするので、創部を圧迫しない姿勢が必要 精神的ピアサポートが必要

第２章　キャハリザクキャラジ障害者施設 ホームケア研修会　褥瘡対策セミナー

２－１　実施概要

＜日　時＞　２０１３年5月1日

＜場　所＞　イランキャラジ市　キャハリザクキャラジ障害者施設

＜参加者＞　在宅障害者 59 人　(家族を含めて 100 名以上)

キャハリザクキャラジ障害者施設スタッフ	10 名
イランキャラジ福祉省職員と医師	2 名
ミントの会スタッフ	6 名 (日本 5 名・現地 2 名)
通訳	1 名

＜内　容＞　ミントの会の紹介とあいさつ
褥瘡のメカニズムと原因
褥瘡の分類
褥瘡の予防と治療
質疑応答
キャハリザクキャラジの挨拶
その後キャハリザクキャラジ施設長からの今後の連携について話があった。

＜配布物＞　研修会資料・記念品ミントの会タオル・カルシウム牛乳・栄養食品

パワーポイントを見ながら研修

たくさんの車いす障害者と家族が参加

協力者のキャハリザクキャラジ職員の挨拶

寝たきり障害者もベッドに乗って参加

第３章イランの在宅障害者の自宅訪問活動

ケース紹介　身体状況	生活状況	生活相談内容
2013年4月30日(火) 39歳　男性　Ｃ５ 事故で受傷しねたきりで褥瘡ができたが今は褥瘡なし	リハビリは熱心で車いすへの自力移動は可能食欲低下し体重減少　食事は自立 排泄・清潔は介助	手動車いすを提供し、エレベータ付き住宅を確保 デイサービスや就労の相談
2013年4月30日(火) 69歳　女性　右足首の骨折と脳腫瘍手術後右半身マヒ褥瘡なし	転倒が多く困っている 室内杖歩行　ＡＤＬ自立　外出は少ない	転倒予防のため、サポーター使用し内反を防ぐ 片麻痺用の歩行器の提案
2013年5月1日(水) 67歳　女性　Ｃ５ 寝たきりであるがエアマットレス利用し褥瘡なし	リハビリに消極的で家族も手動リフトを利用せず寝たきりの状況　体重が重いために寝返り困難　全介助	介護者へのリハビリ指導と合併症予防を中心に相談
2013年5月4日(土) 27歳　男性　多発性硬化症による運動障害　褥瘡治癒 上肢が動くが筋力低下　自力体位交換不可　食事量少なくかなり痩せている	エアマット、ロホマット使用いる、食事は自立、他ほぼ全介助でリフト利用し車いすへ移動して外出するが、体力低下し短時間	新しい治療の予定があり体力増強に向けての意欲付け 褥瘡のリスク高いため、皮膚管理について相談
2013年5月4日(土) 42歳　男性　Ｔ１０ 左臀部3×3　ステージⅣ 感染なし　浸出液少ないが時々感染兆候有　洗浄後軟膏塗布　食事量少ない	室内手動車いす・外出時は電動車いす利用。仕事の為に座位時間が多いと褥瘡悪化するため、仕事時間を６時間から３時間に減らした。食事・排泄は自立、清潔は介助	ロホマットが古いため何度も破損しているので、福祉用具のメンテナンスの相談 褥瘡悪化しやすいため、皮膚管理についてアドバイス
2013年5月5日(日) 58歳　男性　Ｔ８ 麻痺足を骨折したことがあるが治癒　褥瘡なし	車いすで旅行にも出かけている。車いすへの移動は自分で考えたつりさげ式のベルトを利用している、食事・排泄は自立、生活は介助	障害を受けてから長いので自宅での生活は落ち着いている、継続して状況確認をおこなう。デイサービスや仕事の相談
2013年5月5日(日) 55歳　男性　Ｔ９ 不全まひのため下半身に疼痛あり精神的うつ状態で外出していない。褥瘡なし	自宅内で平行棒の歩行訓練を行っている。食事は自立、排泄・清潔は介助	住居は２階で、外出には人手が必要 障害を受け入れるための精神的カウンセリングやピアサポートが必要

第４章　　活動を終えて

今回の訪問活動を通して、今まで知ることのできなかったイランのスタッフによる訪問活動の実際を知ることができ、学ぶことの多い活動であった。イランの医療や生活習慣の違いについてよく理解して訪問活動ができたかというと十分ではないが、違いはあっても目的は同じなので一緒に考え行動してきた。イランでも日本でも、私たちを待っていてくれる人たちがいることが、スタッフの活動の原動力となることもわかりあえた活動であった。またホームケアセミナーでは、日本のホームケアについて知りたいというイランの看護師や障害者たちの声に答えられるよう準備し、褥瘡を作らない、長引かせないという、実際に役立つ情報が提供できたものと思う。
ホームケアの中心は本人と家族であるが、医療と介護の専門家たちがチームで係ることで、よりよく生活するための技術が提供でき、安心して在宅生活がすごせる。イランに於いては在宅生活の情報や物品が少ない中で、スタッフや本人・家族が生活の工夫や情報共有・協力体制を作り上げるよう今後も支援したい。また、イランに於いて訪問看護や訪問リハビリの技術をセミナーや認定制度の確立を図ることができるように支援し、ホームケアを支える人材を増やしたい。さらに、日本のピアカウンセラーの素晴らしさも伝え、障害者本人がピアカウンセラーとして当事者の力を発揮し、発言する機会を多くもち、相談活動ができるよう協力していきたい。

ミントの会はこれからも、ホームケアの知識や技術の提供と専門家の人材を育成する活動を進め、イランの障害者の生活に役立つ活動を行い、イランに根付いた活動を続けたい。

バリアフリーまちづくり研修

第1章　キャハリーザク　BF 研修

1　概要

1－1　実施日程

・事前調査：2013（平成 25）年 5 月 14 日（火）

・研修および工事現場確認：2013（平成 25）年 5 月 16 日（木）

1－2　研修目的

（1）施設整備の見直しの視点を伝える

・日本のＢＦ整備技術について紹介し、施設の BF 改修の参考にしていただく。

（2）当事者参加のＢＦ検討手法（ワークショップ）の技術を伝える

・施設内を BF の視点で点検し、障害者の移動や施設利用の具体的な困難を理解することで、ＢＦ整備のニーズを把握する。

・そのための手法として、車いす体験等の疑似体験を通して、障害者と共に検討することで効果的な整備内容を確認できる意義を伝える。

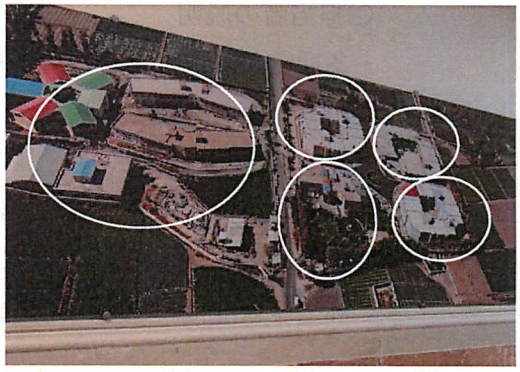
1－3　キャハリザクキャラジ障害者施設の紹介

・41 年前に一人の医師によりテヘランに「キャハリザク障害者施設」ができ、約 10 年前、アルボーズ州キャラジ市に「キャハリザクキャラジ障害者施設」が篤志家の寄付で開設された。

・現在この施設は、障害者や高齢者のデイサービスセンター、リハビリ施設、診療所、歯科診療所、カウンセリング室からなる通所施設となっている。

・施設の運営はほとんどが国民の寄付で成り立ち、利用にかかる費用は無料となっている。

・現在 4 つの施設を増設中で、高齢者や小児障害者の為の施設が建設されつつある。



（3）日本の小学生向けDVDの紹介

・日本ではBF普及のために小学生を対象として学習教材を作成し授業を行っていることを紹介。

小学生のためのバリアフリー教育について

place　Ltd.
Professional Engineer　Nobuhiko Fukunaga　福永順彦
Shigeko Fukunaga（Miyachi）宮地成子

1　動画制作の目的

・社会環境のバリアフリー化を実現するためには、道路や建築物の環境整備とあわせて、考え方や活動を広げていく取り組みの両方が必要であり、日本ではその取り組みも盛んに行われている。

・今回紹介する動画は、さまざまな障害者が街で直面する困難を紹介するとともに、子どもでもできる解決策を、子ども自身が考える機会を与えることを目的としている。

2　子どもに対するバリアフリー教育が重要である理由

・市街地、建築物、交通施設などのバリアフリーを実現するためには多くの経費と時間が必要である。

・子どもたちがバリアフリーの正しい知識を得ることによって、将来社会の環境を整備する立場になったときに、環境の改善に多大な役割を果たすことが期待できる。

・また、子どもたちが学んだことを、自分の親や家族に伝えることによって、大人の理解を促進することにも役立つ。

3　この動画によって伝えたいこと

・バリアフリーを理解するための基本は、障害者は特別な存在ではなく、いつでも身近に存在する可能性があることを理解し、障害者の多様性を理解するということである。

・なぜならば、障害者にも使える環境をつくるためには、その障害者が市街地で何に困っているか、どのような特性を有しているかを知ることが必要だからである。

4　子どものための教育プログラムの実施

・障害者の特性を、子どもたちが理解できるように教えるためには、そのために考えられた特別なプログラムが必要である。

・東京都江東区では、このようなプログラムを実施するために、障害者を含めた市民が参加するワークショップを実施し、そこでプログラムについてのアイデアを出し合い、その結果をプレイスがまとめ、小学生のための授業を実施している。

・子どもたちが障害の特徴を理解するために最も重要なことは、直接障害者と合い、話を聞くことである。また、子どもたちが自然に、楽しみながら障害者の特性を理解できるようにするためには、ゲームのような方法も効果的である。

第2章　サベージブラーブのBF調査

1　実施日程

・2013（平成25）年5月15日（水）

2　目的

・イランの一般的な郊外型市街地の中心部におけるバリアフリーの状況を把握する。

3　サベージブラーブについて

・テヘランから70kmほど離れた幹線道路沿いの市街地

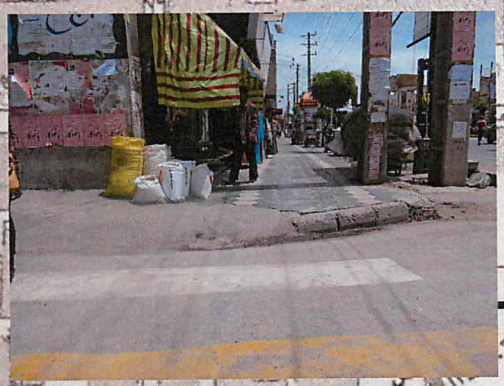
B コースの BF 状況

・歩
る。

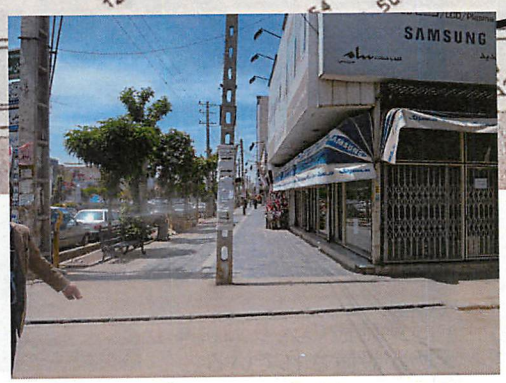
B－12

・商業施設の入り口を入るとすぐに下りの階段があり、危険である。

B－13



・歩道と車道の間の段差が大きく、荒れている。



・幹線道路の歩道は広くベンチも設置されているが、歩道中央に柱や車止めなどの障害物がある場合がある。

N

A コース ●●●●●●

B コース ▬▬▬

平成 25 年度

イランイスラム共和国の障害者バリアフリー支援事業

バリアフリーまちづくり研修報告書

平成 25 年 6 月

発　　行：特定非営利活動法人 イランの障害者を支援するミントの会